

沼津市 富士山火山防災マップ

富士山全体の災害想定(可能性マップ)

この領域図は、富士山が252地点の全ての火口から噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及びとされる範囲を全て重ねて描いたものであり、一度の噴火で全ての方向に同時に発生することを意味するものではありません。

火砕流

火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲です。高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下ります。

噴石

火口から噴出した約20~30cm以上の石が落ちてくる範囲です。風下では、マップに着色されていない範囲でも小さな噴石に注意してください。

融雪型火山泥流

雪が積もっている時に噴火し、それになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれる可能性のある範囲を示しています。

降灰後土石流

火山灰が厚く積もると雨で流れて土石流となるため、降雨時に警戒(場合によっては避難)が必要となる範囲を示しています。火山灰が厚く(10cm以上)積もる地域では、少しの雨でも土石流が発生しやすくなるため、注意が必要です。

凡例
 鉄道 高速道路 主要道路
 国道 有料道路

溶岩流

高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め、近くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができず。

■ 気象庁が発表する富士山火山の情報(噴火警戒レベル)と避難の全体イメージ

気象庁が発表する富士山火山の情報(噴火警戒レベル)			
種別【名称】	噴火警戒レベル	対象範囲	火山活動の状況
予報【噴火予報】	レベル1	火口内等	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。
警報【噴火警報(火口周辺) または 火口周辺警戒】	レベル3(入山規制)	火口から居住地域近くまで	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)。噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
特別警報【噴火警報(居住地域) または 噴火警報】	レベル4(高齢者等避難) または レベル5(避難)	居住地域及びそれより火口側	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火直後			居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。噴火が切迫している状態にある。
噴火状況判明後			

避難の全体イメージ			
対象	避難対象エリア		
	第4次避難対象エリア 溶岩流が3~24時間以内に到達する可能性がある範囲	第5次避難対象エリア 溶岩流が24時間~7日以内に到達する可能性がある範囲	第6次避難対象エリア 溶岩流が7日~最大で57日間に到達する可能性がある範囲
住民	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)
観光客等	帰宅	帰宅	帰宅
分散避難	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)
住民	乳幼児、児童、生徒の引き渡し等	乳幼児、児童、生徒の引き渡し等	乳幼児、児童、生徒の引き渡し等
観光客等	帰宅	帰宅	帰宅
分散避難	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)	影響範囲外への自主的な分散避難を希望する住民は、分散避難を実施。(この場合、レベル1~3のうちの自家用車を利用可)
住民	情報収集体制	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)
避難行動要支援者	避難準備	避難準備	避難準備
住民	情報収集体制	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)
避難行動要支援者	避難準備	避難準備	避難準備
住民	流下パターン(※2)に応じ避難	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)	情報収集体制(行政機関から出される情報に注意)
避難行動要支援者	避難	避難	避難
住民及び避難行動要支援者	(居住地に)溶岩流の流下の可能性がある場合は、避難(降灰が生じた場合、車両での移動は困難となるため、徒歩で避難) 降灰後土石流の可能性のある区域から避難(緊急調査結果が出される前に降灰があった場合、溪流付近からは立ち退き避難) 降灰時は、原則、自宅又は近隣の堅牢な建物内での屋内避難(大規模な降灰や溶岩流の流下、近隣の火災発生など立ち退き避難を要する場合、徒歩で避難)		

(※1) 第4次に接する第5次避難対象エリアの一部は、第4次避難対象エリアと同時期に避難指示を出す場合があります。

(※2) 流下パターンについては、裏面に記載しています。

沼津市の溶岩流の想定影響範囲

この図は、富士山が噴火し、沼津市に溶岩流が到達する可能性がある場合に想定される溶岩流到達エリアを示しています。このため、図の避難対象エリア内の住民は、避難対象エリア外に避難する必要がありますが、噴火の火口位置又は規模によっては、溶岩流が沼津市まで流下しない可能性があるため、避難のタイミングは沼津市からの情報に留意してください。

